発行日: 2026年１月27日

鳴門教育大学附属中学校

研究だより No. 5

マスコット
キャラクター
（フチュッピー）

令和７年度の本校研究では、各教科が目指す資質・能力の育成に向けて、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」、さらに「ＩＣＴの活用」に重点を置き、授業改善に取り組んでいます。12月には音楽科、保健体育科、美術科の公開授業を実施し、多くのご参観をいただきました。生徒の学びの様子や授業づくりの工夫について、貴重なご意見を頂戴しております。

本号では、各教科の公開授業の成果と課題を紹介しております。今後ともご指導・ご助言のほど、よろしくお願い申し上げます。

職員研修会【講師：藤村裕一先生（鳴門教育大学大学院特命教授）】

12月23日、鳴門教育大学大学院特命教授 藤村裕一先生を講師にお迎えし、授業改善に向けた職員研修会を実施しました。藤村先生からは、子どもを夢中にさせる授業づくりの大切さや、学び方を鍛えるための手立て、学習習慣や学習環境の整備の重要性など、多岐にわたる内容についてご講義いただきました。また、研究を推進していくうえで大前提となる理念や理論の整理について、授業づくりの根幹をどのように言語化し、日々の実践と結び付けていくかという視点をご提示いただきました。さらに、他校の実践例を通して、授業づくりの多様な視点や考え方に触れることができ、今後の研究を進めるうえで視野を広げる貴重な機会となりました。豊富なご経験に基づく熱心なご講義から、授業者自身が学びの本質に立ち返り、子どもにとって「学びたくなる授業」とは何かを改めて考える機会となりました。

公開授業【音楽科】の成果と課題
授業者：脇坂　幸菜

音楽科では、第2学年表現領域 創作分野「響きを感じて、メロディーをつくろう」の題材で公開授業を実施しました。カノン進行に沿った旋律づくりに取り組み、響きの移り変わりを味わいながら、修学旅行の思い出をテーマに、自分の思いや意図を音楽で表現することをねらいとしました。

授業では、創作アプリ「カトカトーン」や電子ピアノ、五線紙など複数の学習手段を用意し、生徒が自分に合った方法で音を試しながら創作に取り組む姿が見られました。また、Padlet（オンライン掲示板アプリ）を活用して作品を共有し、仲間の表現に触れながら気付きを交換するなど、協働的な学びが自然に生まれる場面も見られました。

研究協議会では、生徒が主体的に創作方法を選び、個々に試行して高めた表現を仲間との聴き合いの中で見直したり、発展させたりしていた点について評価をいただきました。一方で、音選びで悩む生徒への支援の在り方や、指導と評価の一体化を図るための手立てについてご助言をいただきました。

今後も生徒自らが音楽活動そのものを楽しみ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善に取り組んでまいります。

公開授業【保健体育科】の成果と課題
授業者：大岩　誠

保健体育科では、第１学年球技ゴール型「タグラグビー」の単元で公開授業を実施しました。本時は、「攻撃時におけるスペースの活用」という単元課題を踏まえ、自己やチームの課題に応じて練習内容を選択し、技能の向上と戦術的思考を深めることをねらいとしました。

授業では、個別練習としてパス・キャッチ・ランなど複数の練習場を設定したことで、生徒が自らの課題に応じて練習を選択する姿が見られました。また、チーム練習では、タブレット端末を活用して動画で動きを確認したり、Padletを用いて考えや作戦を共有したりするなど、必要に応じて学習環境を選択する場面も見られました。

研究協議会では、生徒が主体的に練習環境を整え、個別に高めた技能をチームの活動に生かそうとした点について評価をいただきました。一方で、練習選択に迷う生徒への支援の在り方や、ICT活用の工夫、個別練習で高めた技能を協働的な活動につなげる手立てについてご助言をいただきました。

今後は、これらの課題解決に向けて授業構成を工夫し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善に取り組んでまいります。

公開授業【美術科】の成果と課題
授業者：栗岡　良平

美術科では、第１学年「刷るっとプリント Myマーク ～版画でデザイン～」という題材で公開授業を実施しました。本題材では、自分を表すマークをデザインし、水性木版の技法を用いて和紙に刷ります。出来上がったマークは、最終的に缶バッジにします。公開授業では、刷り始めの工程を参観していただきました。生徒はバレンや刷毛の使い方を試行錯誤しながら、粘り強く刷れていました。また、水性木版ならではの色の重なりの美しさや、ぼかし刷りの表現効果を生かそうと工夫する姿が見られました。

教材研究については、水性木版の技術面の手立てについて研究協議やアンケートで評価をいただきました。一方で、ICTを生徒の「個別最適な学び」にどのように生かしていくかという課題が挙がりました。情報活用能力の育成や個々に応じた学習方法をさらに見出していく授業者の手立てが必要です。この課題を解決し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた更なる授業改善に取り組んでまいります。

鳴門教育大学附属中学校
〒770-0804　徳島県徳島市中吉野町1丁目31番地　https://www.secsch.naruto-u.ac.jp/research.html
088-622-3852　088-652-0122　fuchu@naruto-u.ac.jp